

令和元年7月31日

砺波医師会誌

杏和だより

第211号

◇◇◇ 目 次 ◇◇◇

〔時 評〕 ・RUI HACHIMURA FROM TOYAMA JAPAN	藤井 正則	2
〔砺波医師会役員〕		3
〔活動報告〕		4
〔散 居 村〕 ・別荘	柳澤 伸嘉	8
・「さようなら、レナ」	山下 良平	9
・心の翼を広げて	山田 泰士	12
・中島(翔哉)、カターレにはいったってよ。	山本 郁夫	13
・雑感3	湯浅 雅志	14
・後期高齢者2年目	吉田康二郎	15
・北陸って...	若松 伸彦	16
・毛沢東に会いに行く	浅山 邦夫	17
・祭りに思うこと	網谷 茂樹	18
・趣味力をもつ	家接 健一	19
〔新入会員紹介〕	ものがたり診療所 田邊 望	20
..... 市立砺波総合病院 腎臓内科	松野 貴弘	21
〔編集後記〕	柳澤 伸嘉	22

発行所 砺波市幸町6番4号

公益社団法人 砺波医師会

発行人 砺波医師会長 藤井 正 則

RUI HACHIMURA FROM TOYAMA JAPAN

砺波医師会

会長 藤 井 正 則

時評原稿締切り間際にビックニュースが飛び込んできました。世界中が注目したNBAドラフト会議で、富山市出身の八村塁選手が一巡目に指名され鳥肌が立つと同時に大変驚いています。特に感動したのは司会者がフロム トーキョウ ジャパンではなく、フロム トヤマ ジャパンと言ってくれた事です。NBA側が八村選手をしっかりとリスペクトし、そして将来を囑望している証だと思いました。大相撲 朝乃山関、バスケット 八村選手の活躍は富山県民にとって明るい話題でもあり励みにもなります。来年には東京オリンピックが開催され、富山でも世界で最も美しい湾クラブの世界大会が開催されます。このままの勢いで無事に盛会出来る事を切望してやみません。

さて時代は平成から令和に変わりましたが、お祭りムードもぶっ飛ぶ様な官僚や閣僚の不用意な言動に、国民は右往左往しています。平成 30 年間で終身雇用、年功序列型賃金は崩壊し、国民が安心した定年後を暮らすための年金制度はお寒い状況です。人生 100 年時代が到来し、いきなり発表された「老後資金 2000 万円」報道に日本中が困惑し無力感が漂う中、一方では事実との声も聞こえてきます。執行猶予がついた医療版働き方改革もいよいよ待ったなしとなり、医師不足、医師の偏在問題から総合病院の診療科の廃止に至る経過だけは避けたいところです。この夏にある第 25 回参議院選挙は、今後の政権運営を占う上で重要な選挙になります。選挙後の動向を注視したいと思います。

砺波医師会は二期目がスタートしました。一期目を終え医師会運営にもようやく慣れてきたところです。医療・保健・福祉の充実を図ると共に、行政や砺波総合病院との連携を今まで以上に強め、地域に根差した安心できる医療を提供できるよう頑張ります。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

砺波医師会役員

藤井会長

伏木副会長

① 砺波医師会担当業務
(令和3年6月まで)

② 富山県医師会担当業務
(令和3年6月まで)

監 事		理 事							副会長
豊田 葉子	住田 亮	津田 博	河合 博志	柳澤 伸嘉	網谷 茂樹	山下 良平	佐藤 重彦	大澤 謙三	伏木 弘
① 広報・ネットワーク	② 乳幼児・学校保健	② 男女共同参画 ① 広報・ネットワーク	② 勤務医部会 ① 病診連携、地域保健	② 広報、特定健診・がん検診 ① 広報・ネットワーク、地域保健、特定健診・特定保健指導	② 産業保健・健康スポーツ、学校心臓検診 ① 産業保健・防災、庶務・会計・記録、准看護学院	② 学術・生涯教育 ① 学術・生涯教育 病診連携、在宅医療	② 救急医療 ① 救急医療・急患センター	② 在宅医療 ① 在宅医療 在宅医療支援センター協議会	② 社会保険、在宅・福祉・介護 ① 庶務・会計・記録 保険診療部会、介護保険

議 長	井上久美子	副 議 長	山本 郁夫
顧 問	河合 康守	永井 忠之	
裁 定 委 員	福井 悟	吉田康二郎	杉本 立甫

役 職 名	氏 名
富山県医師会理事	河合 晃充
富山県医師会裁定委員	山本 郁夫
富山県医師会代議員	藤井 正則・伏木 弘
富山県医師会予備代議員	大澤 謙三・山下 良平
富山県医師国民健康保険組合組合会議員	網谷 茂樹
富山県医師信用組合理事	網谷 茂樹
富山県医師協同組合理事	藤井 正則
富山県医師協同組合総代	伏木 弘・金井 正信
	柳下 肇・豊田 葉子
富山県医師連盟執行委員（支部長）	藤井 正則
富山県医師連盟執行委員	河合 晃充

活動報告

(平成 30 年 12 月～令和元年 6 月まで)

平成 30 年 12 月

- 6 日 社会保険医療担当者の個別指導
- 7 日 在宅医療介護支援巡回講座
- 10 日 第 9 回理事会
在宅医療支援センター運営委員会
- 12 日 砺波医療圏 肝疾患診療連携カンファレンス
学術・生涯教育委員会（県医）
- 17 日 平成 30 年度地域産業保健センター全体会議
- 20 日 市立砺波総合病院 肝臓病教室

平成 31 年 1 月

- 8 日 第 10 回理事会（移動理事会）
在宅医療支援センター運営委員会
- 12 日 平成 31 年度砺波准看護学院一般入試
- 15 日 砺波准看護学院 平成 31 年度一般入試合否判定会議・運営理事会
- 16 日 在宅医療支援講座
- 17 日 砺波地区病診連携がん診療連携カンファレンス
第 197 回富山県医師会臨時代議員会
- 19 日 新春の集い【医療政策セミナー】
- 22 日 砺波准看護学院入試合格発表
学術講演会
「本当にその P C I は必要ですか？～適切な治療を心がける必要性について～」
市立砺波総合病院 循環器内科 医長 黒川 佳祐
「富山県における急性心筋梗塞治療の現状と病診連携」
厚生連滑川病院 滑川健康管理センター 所長 山本 正和
- 23 日 ねんりんぴっく富山 2018 砺波市実行委員会第 3 回総会
砺波厚生センター管内 産科・小児科連絡会

平成 31 年 2 月

- 4 日 社会保険委員会（県医）
- 6 日 砺波地域医療推進対策協議会 在宅医療部会
- 12 日 第 11 回理事会
在宅医療支援センター運営委員会
- 17 日 J M A T 研修（基礎編）
- 20 日 平成 30 年度第 2 回砺波地域産業保健センター運営協議会
- 21 日 市立砺波総合病院 肝臓病教室
- 24 日 砺波市在宅医療・介護連携推進研修会
- 26 日 学術講演会
「脳卒中予防を目指した血圧管理 何を使用してどこまで下げるか
～ガイドラインと最近のエビデンスから～」
埼玉医科大学国際医療センター 神経内科 特任教授 棚橋 紀夫

平成 31 年 3 月

- 1 日 富山県在宅医療支援センター運営協議会
- 4 日 県・郡市医師会協議会
- 7 日 第 53 回砺波准看護学院卒業式
平成 30 年度肝炎ウイルス検診後フォロー体制検討会
- 11 日 第 12 回理事会
在宅医療支援センター運営委員会
- 13 日 在宅医療支援研修会
- 14 日 富山県医療審議会及び富山県医療審議会地域医療構想部会並びに
富山県医療対策協議会
砺波地区病診連携がん診療連携カンファレンス
- 24 日 平成 30 年度第 1 回臨時社員総会
学術講演会
「C K D にまつわる最近の話題」
富山市立富山市民病院 腎臓内科 部長 大田 聡
- 25 日 平成 30 年度砺波市地域から医療・福祉を考える会
- 26 日 平成 30 年度砺波市福祉計画評価委員会
- 28 日 第 198 回富山県医師会臨時代議員会

平成31年4月

- 8日 第1回理事会
在宅医療支援センター運営委員会
- 11日 第55回砺波准看護学院入学式
- 17日 地域医療・保健事業懇談会
- 18日 市立砺波総合病院 肝臓病教室
- 23日 学術講演会
「関節リウマチ治療と骨粗鬆症対策について」
富山大学附属病院 整形外科・リハビリテーション部 診療教授 松下 功
- 24日 第1回選挙管理委員会（県医）
- 25日 富山県医療審議会及び富山県医療審議会地域医療構想部会並びに
富山県医療対策協議

令和元年5月

- 13日 令和元年度第1回臨時社員総会
第2回理事会
在宅医療支援センター運営委員会
- 16日 砺波地区病診連携がん診療連携カンファレンス
- 23日 令和元年度第1回広報委員会
- 28日 監事会
学術講演会
「砺波医療圏における消化管出血の現状について」
市立砺波総合病院 消化器内科 部長 稲邑 克久
「拡大する抗血栓療法における出血リスクをどのように減らすか」
大阪警察病院 顧問 平山 篤志
- 24日 特定健康診査等事務説明会

令和元年6月

- 3日 県・郡市医師会協議会
- 5日 2019年度（令和元年度）富山県医師会自主指導
- 10日 第3回理事会
在宅医療支援センター運営委員会

12 日 2019 年度富山県医師連盟執行委員会

13 日 第 2 回選挙管理委員会（県医）

20 日 第 199 回富山県医師会定例代議員会

24 日 砺波市糖尿病対策地域連携連絡会

25 日 学術講演会

「砺波医療圏の心不全診療の現状について」

市立砺波総合病院 循環器内科 医長 原田 智也

「高齢者における心不全治療～心不全再入院と A D L 低下を防ぐために～」

公立陶生病院 院長 味岡 正純

26 日 令和元年度定例社員総会

第 4 回理事会

砺波地域 M C 協議会

27 日 砺波市訪問看護事業運営委員会

28 日 令和元年度第 1 回砺波地域産業保健センター運営協議会

別 荘

柳澤医院

柳 澤 伸 嘉

古い話だが高校1年生の冬、同級生4人だけで同級生の軽井沢の別荘に泊まりに行った。それまで別荘はテレビドラマでしか見たことがなく、自分の周りでしかも同級生で持っている人がいるのに大変驚いた。厳寒の軽井沢で食事を自炊し未成年だが少し飲酒をしながら色々な事を語りあったことは貴重な経験となり、いつかは自分も別荘を持ちたいとの願望をもつようになった。しかし社会人になってもアパート暮らしの勤務医の身では別荘購入は夢のまた夢、当たれと念じつつ宝くじを買い続けたが成果はでなかった。

18年前、砺波で医院の開業を決めた際、医院を住宅と別の場所に建て医院を別荘代わりにと一時考えたが、土地も資金もそんな余裕もなく、また仕事場が別荘というのも変なので断念した。それならと自宅の庭、駐車場にテントを張ってみたが、これでは別荘というよりキャンプで長期滞在は無理である。近年五箇山あたりでは空き家が多くなっていることを聞き、安く購入し別荘として利用することを考えたが、それなりに管理が大変らしい。F先生によると、空き家は傷んでいるものが多く修繕が必要、さらにはテンやハクビシンの類が住み着き駆除、消毒も必要、管理維持のため定期的に清掃、風とおしが必要なこと、熊に注意などハードルが高そうである。第一、よそものに売ってくれるかもわからないらしい。いっそアパートの一室を借りて・・・ここまできると別荘ではなく別宅？か。結局は医院内の6畳サイズの院長室が別荘として私には合っているのかもしれない。



「さようなら、レナ」

やました医院

山下良平

昨年12月、我が家の小さな家族（愛犬）が亡くなりました。12歳3ヶ月でした。シェットランドシープドッグという種類の雌犬で、生後2ヶ月の時に我が家にやって来ました。レナと名付け、以来12年間にわたり、まさに家族の一員として同じ時間を共有してきました。予想はしていましたが、息を引き取った時、妻と共にこれほど涙が出るものかと思うほど泣きました。いわゆるペットロスについては、頭では良く理解していたつもりですが、実際に経験すると、その喪失感はやがて以上大きく、事ある毎に、いろいろな思いが込み上げ、胸が塞がれる気持ちになります。ペットを亡くした人が、「あんな思いをするくらいなら、もう飼いたくない。」などと言われるのを聞きますが、その心情を身にしみて味わっている次第であります。親バカならぬ飼い主バカで、12年間、レナが私たちと一緒に過ごした証を文字に残して置きたいと思い、いわば追悼文としてこの文章を書いております。

12年前、我が家へ初めてやって来た君は、本当に小さく、痛々しいほどにおどおどと震えていました。怖がりで、臆病なのは、まだ慣れないためだと思っていましたが、それは君の性格、個性で、いつまで経っても怖がりで臆病なままでした。散歩の時に自分より小さい犬にも吠えられて尻尾を巻いていました。とりわけ苦手なのが雷で、雷鳴が響くと、いつも身を寄せて来て震えていました。散歩の時に雷が鳴ると、ピタリと座り込んでそれ以上一歩も歩こうとせず、結局、散歩を中止して、抱いて帰ってくる羽目になりました。普段は家の階段をまったく登ることができないのに、雷が鳴ると怖さのあまりに知らぬ間に階段を登って2階に上がっていることがあり、どのようにして階段を登って行くのかが家族の間での大きな謎となっていました。

君を連れていろいろなところへ出かけました。車で東京や名古屋まで行ったこともありました。初めて東京へ行った時、君は長旅の疲れで、息子のアパートに着くや横になって動かなくなってしまったことがありました。ある時、2～3日家を空けるため、仕方なく君をペット施設に預けに行った時、別れ際の君の不安げで心細そうな目が心に刺さり、以来、君を置いて遠出することができなくなりました。私たちの生活は、君を中心に回っていたと言っても過言ではありません。

君は夜、少しでも私たちに近い所で休みたいのか、いつも2階へ上がる階段下の廊下に横たわり、そのまま朝、私たちが起きて来るのを待っていました。また日中、家に誰もいな

い時は、日がな居間の窓から外を眺め、私たちの帰りを待っていました。いつも外を眺めている君の姿は、一体何を見つめているのかと近所でも話題になっていました。毎晩、仕事を終えて帰宅すると、君は家に着く数十メートルも前から私の車の音を聞きつけ、玄関で吠えながら出迎えてくれました。尾を振りながら飛び寄って来る君に、疲れた私は本当に癒されました。

君は小さい時からあまり体が丈夫ではありませんでした。2～3歳の頃、血尿を繰り返し、動物病院で撮ったXpで骨盤腔内にうずら大の膀胱結石が写っていた時は、単なる膀胱炎だと思っていたのに、こんなに大きい結石ができていたのかと本当に驚きました。また、もともと寒冷地原産の犬であるためか、夏の暑さに弱く、毎年、ひどい皮膚炎になって毛が抜けてしまい、その度にとっても心配しました。それでもなんとか10歳頃までは比較的安定して過ごして来たのですが、11歳の夏、突然、喘鳴、呼吸困難を生じ、歩けなくなってしまいました。原因が分からず、いくつかの動物病院を回りましたが、最終的に僧帽弁逆流症による心不全で、いわゆる心臓喘息の状態と判明しました。そう診断されて医院でCTを撮ってみたところ、胸腔下半を大きく占め、両側の側胸壁に接するまでに拡大した巨大な心臓が、左右の肺を上方に強く圧排しており、これではとてもまともに呼吸ができないだろうと思われる状態となっていました。その後は、処方された利尿薬とACE阻害薬を内服し、塩分制限を厳しくし、毎日ハラハラしながら君を見守って来ました。

発症後、当初は半年も持たないと思われましたが、薬剤の効果もあり、時には庭に出て家の周りを歩ける程に具合の良くなることもありました。また心不全だけでなく、加齢に伴う白内障や難聴も次第に進み、何度も名前を呼ばないと寄って来なくなり、また、おやつを顔の前に差し出しても何か分からないのかジッと見つめることも多くなりました。ゼイゼイと息苦しうにしている君にどうしてやることもできず、日に日にやせ衰えて行く姿を見ていることは、私たちにとっても本当に辛いものでした。病気なのだから無理しなくて良いのだと、どれだけ言い聞かせても、君が自分の身に起きていることを理解できず、なんとかいつものようにしようと戸惑っている様子に心が痛みました。

私は君と一緒にいて、喜怒哀楽の点において、君には私たち人間とまったく変らない、というよりも、まったく同じ心があり、私たちの言葉や気持ちを驚くほど理解しているということがはっきりと分かりました。そして君は、散歩の時、いつも私の話相手になってくれました。私は、自分の考えていることや抱えている悩み、問題などを散歩の間中、君に打ち明け、語りかけることを常としていました。しかし、君はいつも文句一つ言わずに私の話すことに耳を傾け、そしてそれを誰に漏らすこともありませんでした。君は迷惑だったかも知れませんが、心の中にあるものを君に向かって話すことで、どれだけ私の心が軽くなり、救われたことか分かりません。君との散歩は、君のためと言うより私自身のために君に付き合ってもらっていたと言うのが正

しいのです。

優しく臆病だったレナ。しかし、気まぐれで気難しい一面もあったレナ。いつも静かに何かを考えているような目をしていたレナ。孤独を好んだレナ。アイスが大好きだったレナ。リンゴをサクサクと本当においしそうに食べていたレナ。夏の暑さが苦手な一方、雪の積もった庭を元気いっぱい走り回っていたレナ。

私にとって、いろいろなレナ全部が愛おしく、そしてかけがえのない思い出です。私は、これからもずっと心の中の君に語りかけながら、心の平静を保つように努めていきたいと思います。これまでと同じように、「またバカな事を言っている。」と、雲の上で聞き流していてください。私は君との12年間を決して忘れることはありません。本当にありがとうございました。さようなら、レナ。



心の翼を広げて

市立砺波総合病院 整形外科

山 田 泰 士

6月はじめに、あるアーティストのコンサートのために名古屋に行った際、以前から行きたいと思っていたMR J ミュージアムを訪れた。工場の壁に横断幕が張られていた。工場内は、撮影禁止であり、メモを取ることも制限されていた。記憶力の低下が著しいが、確か書いてあった、「世界に飛ばそう！日本の翼」と。

MR Jは書くまでもないが、国産ジェットである。外観デザインは、日本刀と歌舞伎がモチーフとなっている。客室内の照明の形は富士山をモチーフにデザインされているこだわりについても説明があった。100万点の部品が使われており、その一つ一つに多くの熱意と努力がこめられており、最先端の技術で、様々な問題をクリアし続けられてきた。

実際の機体を組み立てられている工場内は、現在6号機と7号機が製作途中であり、どこか厳かな感じがした。ナンバリングされた道具が整然と並べられており、機体内に置き忘れないようにしているとのことであった。

見学者が通る通路の展示で、金属の穴に正確にドリルを挿入するデモがあり、ドリルの持ち方まで指導していただいた。もちろん日頃ドリルをよく使うことは、黙っていたが、それでよかった。手術のときの持ち方よりも教わった持ち方のほうがしっくりきた。私の手術もこれで改善されるといいのだが（笑）。

エントランスでは、写真撮影が許されており、MR Jが大空を飛ぶ姿がポスターにあった。MR Jが世界の空を飛び回る日が近い将来に来るものと確信した。（名称は三菱スペースジェットに変更されることが6/19に発表された）そのためには、まだまだクリアしなければならないものがあるとの説明が最後にあった。

最後に見せていただいたビデオでは、「世界に飛ばそう！日本の翼」、そのために社員一同「心の翼を広げて」という決意が語られていた。医療は航空産業に学ぶことが多いと言われることがある。スタッフが一丸となり、誇りを持ち、一つの目標に向かう姿は、見習うべきものがあると感じた。より良い医療を提供するために…「心の翼を広げて」

中島（翔哉）、カターレにはいつてたてよ。

山本内科医院

山 本 郁 夫

サッカーの話です。

2019年シーズン6月、カターレ富山は「八戸」と「讃岐」に連敗し、J3の8位に位置し、今季もJ2復帰は辛くなってきた。

2009年、カターレは「JFL」からJ2になんとか“加盟”した。その先、JFLで好成績だった「YKK AP」と「北陸アローズ」がJリーグ目指し合併、カターレ富山が多くの方々の熱意と尽力で発足した。J1クラブライセンスも有している。1993年Jリーグ発足の際、当時の中沖富山県知事が県議会での答弁で『Jリーグ参加構想は全くない』と発言していたことからしても画期的なことだった。

当初は極めて好調、当時湘南ベルマーレ反町監督をしてJ2で一番強いと言わしめた。当然J1昇格チャレンジの目標を持っていた。しかし、その後失速、13位で最初のシーズンは終わった。それからは調子はずっと良くなく（力量がなく）、下位低迷、JFL、J3降格の心配がいつもあった。2014年にも選手を多く補強、なかでも「FC東京」から、U21代表だった中島翔哉を短期移籍獲得した。それでもチームの底上げならず、いつも最下位争いをしてきた「岐阜」や当時J2新加入だった「金沢」「讃岐」にも抜かれ、最下位になり2015年にJ3に自動降格してしまった。その後、毎年J2早期復活を目標にかかげているものの、まだ先、みえず。中島翔哉のその後の活躍は知ってのとおり。

J2、J3とはいえ、一応プロなので、レベルの高い技量、よい試合運びで見ごたえはある。もちろんJ1の試合やトップレベルの国際試合などに比べればかなりの差があるが。実際、カターレはJ2時代に遠藤（保仁）や今野のいる「ガンバ大阪」といい試合をしたし、「FC東京」や「セレッソ大阪」に勝ったこともあった。

スポーツは観戦するなら競技場で観るのがいい。迫力も技量も臨場感はメディアを通してよりも比較にならない。富山県では他の地方もそうだが、以前には“観戦するスポーツ”の機会は少なかった。現在、県内に各プロスポーツリーグでカターレのほかサンダーバーズ、ブラウジーズ、アクアフェアリーズなどのホームチームがあり、応援観戦の機会が増えた。観戦スポーツに熱が入るのは“ひいき”のチーム（ホーム）と“かたき”のチーム（ビジター）の対戦であるからで、世界的にも興行的にも隆盛しているスポーツの要因の多くはこのことにある。（青少年のスポーツやアマチュアスポーツが劣っているというようなことではありません。）味方を応援する。敵を罵倒する。（良くないことだが時には暴力沙汰にもなる。）

カターレ昇格を期待するのは、せめて、J2で、J1から落ちてきて、日本代表級選手を擁するチームとの試合を、この地で観たいからなのです。

雑感 3

ゆあさ眼科

湯 浅 雅 志

新しい時代の幕開けは、富山にゆかりのある元号と共にはじまった。万葉集のみならず、偶然だろうが、亀令会、杏和会を合わせると「令和」となる。その令和最初の杏和だよりに筆をとる間にも、朝乃山の優勝、八村塁の活躍など、富山にとって大変喜ばしい出来事があった。富山の20代前後の若者が、日本のみでなく、世界的にも活躍する姿は、昭和から平成へと生き抜いてきた older にも刺激となる。様々な世代の人々が、まだ始まったばかりの令和時代を歴史として形成してゆき、そしてその歴史は後世の世代に検証される。あらゆる検証に耐えられうる歴史を、涵養していく責務がある。

平成は、眼科にとってまさに奇跡の時代であった。6.0mm PMMA レンズが、foldable レンズへと洗練され、1.8mm 極小切開白内障が実現。それに伴い術後惹起乱視が著しく軽減し、術後視力成績が大幅に改善した。また、術者患者双方の負担が激減した。硝子体腔への手術は、その合併症の多さから、かつては人手の立入る領域とされなかったが、器械の進歩により、より安全な手術が可能となり、普通に手術が行われている。

多くの術者は現在でも昔ながらに顕微鏡の鏡筒を覗きつつ手術を行っているが、最近、4K モニターを立体視眼鏡を通して見ながら head up で行うスタイルの手術が現れ、トレンドとなっている。長時間の手術の際に同じ姿勢を強いられるのとは異なり、首への負担が軽減される。さらに、人眼網膜解像度に迫る4K画像なので、見落としが少ない。新たな時代の令和において、先駆けて出現した技術だけに注目されている。

令和には、どのような発展があるのだろうか。想像がつかないものだが、最先端に遅れることなく精進しつつも、AI・ロボット手術に支配されることなく、いつの時代も、人の治療は帰するところやはり人の手で、といえるようにあって欲しいものである。



後期高齢者 2 年目

寿康堂 吉田医院

吉 田 康二郎

平成 16 年に砺波市へ帰ってきて早いもので 15 年がたちました。当時は自分では老年の感覚は余り無かったのですが、次第に加齢の進行スピードが速くなる実感を感じずるようになりました。昨年後期高齢者の運転免許更新に関する通知が送られてきました。前期高齢者の期間ではなかった高齢者とのレッテル貼りの通知は大きなインパクトを感じました。そうなんだと。

平成 26 年に PMR と診断されて治療が続けられ共存を図ってきたが筋力の低下と平衡感覚の異常が進行し、視力の低下・聴力の低下が加わり行動範囲の縮小が余儀なくされた状態になっています。往診をしない方向に舵をきりました。それに追い討ちをかけるように昨今の高齢ドライバーによる交通事故の報道が連日され、私にとってはかなりのプレッシャーになっています。家族からはすぐ止まる、踏み間違えても止まる車への変更を迫られています。が次第にその考えに同調してゆく自分がいます。

毎日の診療では症状聴取時間が短くなっていること、鑑別診断の疾患数が減ってきたこと（粘りがなくなってきた？）そして直ぐに情報提供書を書こうとする姿勢が多くなっており、このことも思考の幅の減退と自覚するようになりました。またスタッフが投与薬剤の変更があった場合必ず確認してくれるようになった（依頼ですが）ことなども加齢の進行でしょう。間違いが多くなれば、車の場合より早く閉院を考えてる今日この頃です。後、どれ位でしょうか？同級生には県議員を続ける人もいますが、平均的で良いとする考えも有りますが。



北陸って…

あおい病院

若 松 伸 彦

あおい病院で勤務医をしております若松です。皆様宜しく願いいたします。私は下戸で、人見知りで、シャイな石川県民のため、杏和会や勉強会等にほとんど顔を見せず、誠に申し訳ございません。

私は大学入学を機に、兵庫県から北陸に移住してまして、縁あって3年半ほど前から砺波で働かせて頂いております。

最近、東北や関東に行く機会が何度かあり、その意識を強くしたのが北陸は田舎である！と。隣県に行くにも山越えが必須、さらに各都市間に距離があり、複数の県を一体として経済圏が広がる都市部より各県の結びつきが薄く感じます。実際新幹線や特急を除くと、各県庁所在地を結ぶ普通列車は毎時一本しかありません。これが15分毎ならもっと流動人口も増えるんでしょうけど、所要時間や運賃が影響し流動人口が減少し地域間の結びつきを薄くする要因になっていると思います。

あーあ、富山ー金沢ー福井間がそれぞれ片道500円で所用30分で往き来できればもっともっと皆さんもお出かけするだろうに…。

でもこんな田舎でも住み慣れるとコンパクトにまとまった街というのは使い勝手は良いもので、映画館なんか徒歩圏内で有りますし、スーパーやホームセンターで日用品は手に入るし、さらに欲しいならネットを利用すれば情報も物も何でも手に入る時代です。交通渋滞もほとんど無いですしね。ちょっと走れば自然が一杯あり山も海も近くレジャーも充実。他地域の皆様へ、皆様も北陸に移住すれば、意外と楽しいかもですよ。最後に駄文にお付き合いいただきありがとうございました。

追伸、しかし全国チェーン店少ないなあ、やっとできてもすぐに撤退するし、都会に行ったら知らない店いっぱいあるよなあ。

北陸って全国の範疇に入らないのかなあ？…とりあえずミニストップの進出希望です。



毛沢東に会いに行く

浅 山 邦 夫

2018年5月の連休を利用して北京へ行くことができました。旅行の準備段階で、北京で訪れたい場所についての質問があり、私はずっと見学したく思いながら果たせなかった毛主席紀念堂の参観を希望しました。

毛主席紀念堂は、天安門広場の南側の端にある建物で、ガイドブックでは誰でも見学ができることになっています。この施設内には、毛沢東の遺体が防腐処理を施されて安置されています。中国語の勉強や中国の病院との友好交流活動に参加してきた私としては、ずっとはげせない場所と想着てきました。

しかし、この30年余り、何度も天安門広場を訪れる機会があったのに見学が実現しませんでした。その理由は、施設の開館時間の短さや、天安門広場の訪問予定日が休館日にぶつかったこと、そしてもっと多い理由は国家的行事の予行演習やその準備のため天安門広場全体から一方的に観光客が締め出されるためでした。

ようやく今回、参観の希望が果たせました。見学者は長い隊列を崩さずに前進を続け、毛沢東の遺体を横から見学して部屋を通り抜けます。遺体は、私のイメージより小さい印象でした。そして、30年間待ったというほどの感動はありませんでした。でも、ようやくやり残していた思いは解消できました。



祭りに思うこと

あみたに医院

網谷 茂 樹

2025 年になると、高齢者が増加し医療介護で社会保障費が増大すると言われ、どう取り組んでいくか問題となっています。

ある会議で見た資料によると事態はもっと深刻で、2045 年にはその高齢者の人口ですら富山県では減少し、最も激しい減少は氷見市で高齢者が現在の 75%にまで減るというデータでした。富山市は 101%で不変ですが、砺波市は他の市町村とは異なり 145%と現在より高齢者が増えるとのことで、これも誰が支えるのか暗澹たる思いで会議から帰ってきました。

私のルーツは氷見市で、風のたよりによると、もう既に人口減少で祭りが維持できず獅子舞を中止した町内が複数出ているとのことでした。

子供のころから親しんだ太鼓や鐘の音、天狗の軽やかな舞、獅子の舞が隣の町内から消えると聞いてセンチメンタルな気分になりました。

一方砺波市はどうでしょうか。今年も華やかにきれいに、勇壮に夜高祭りがとりおこなわれました。

砺波の夜高も、人数の少ない町内では作成に相当苦労されているとも聞いています。

今後、祭りへの参加町内が減ることも砺波でおこるかもしれません。

しかし、砺波市は将来高齢者人口が増えるのです。

そこで砺波の医療を砺波医師会が支えて、健康な高齢者が増えて、若者といっしょに後期高齢者が元気で祭りを維持していく砺波になるよう願っています。



趣味力をもつ

市立砺波総合病院 外科

家 接 健 一

「僕は陶芸を楽しんでやっている。・・・こんな面白いことを習っている自分に満足しながら死んでいく。それができたら、僕の人生は充実していたと心から納得できるのではないだろうか」。私は音楽プロデューサーの秋元康に顔が似ていると何度か言われたことがある。その秋元康さんが書いた「趣味力」という本の一文である。

世の中には、趣味を愉しむたくさんの方がいる。私も一時期、水泳に熱中していた。今は、運動というよりは気晴らしにプールに行く程度になってしまっているが、まだ多少は泳げる。その代わり、少しずつ他の趣味が増えていった。ランニング、水彩画、ギター、読書、旅行などなど。元来、走ることは好きではなかったが、年々増える体脂肪が気になりつつ、検診後に送られてくる結果に後押しされるように走りはじめた。ランニング歴は3年くらい、その間、黒部カーターマラソン、滑川ほたるいかマラソン、富山マラソン、となみ縦断マラソン、和倉マラソンにも出場した。フルマラソンは3回走った。でも悲しいかな、今はお休み中。水彩画は月1回、美術クラブに通っている。出張の時は、スケッチブック持参である。最初は、へたな自分の絵に自分で渋い顔をしていたが、いまでは気にならなくなった。才能なくても平気の平左だ。自分が楽しければいいのだ。

最近、各地で震災が頻発している。先日も新潟山形で震度6強の地震があった。私たちもいつ命が何かの理由でなくなるかもしれない。50歳も半ばを過ぎると、自分がいつまで生きれるか考えることがある。そんなとき、ふと今死んだら、充実した人生だったと言えるのかと思ってしまう。秋元さんのように満足して死ぬほど趣味にのめり込んではいませんが、これから仕事が一段落したらさらに趣味力をいかして楽しい残りの人生を築いていけたらと思っております。みなさんも、どんどん趣味力をもって人生、愉しみましょう。

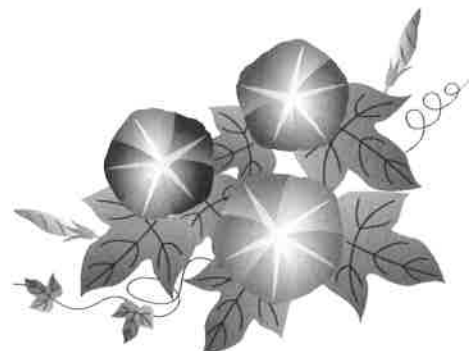


新入会員紹介

ものがたり診療所

田 邊 望

1984年2月5日生まれ、滋賀県米原市出身でございます。早稲田大学スポーツ科学部を卒業し、株式会社船井総合研究所勤務の後、富山大学医学部に入学いたしました。平成27年の卒業後、富山大学附属病院、済生会富山病院で初期研修を終え、平成29年に金沢医科大学リハビリテーション医学科に入局いたしました。そして、同大学での臨床・研究に加え、平成31年4月より、ものがたり診療所での勤務（月・水・金）を開始いたしました。リハビリテーション医学における専門は、地域リハビリテーション、生活期リハビリテーションでございます。この専門性に磨きをかけ、地域医療のより良き発展に寄与できるよう、ものがたり診療所での在宅診療、地域リハビリテーションの仕組みづくりに邁進して参る所存でございます。諸先生型におかれましては、今後何かとお世話になることと存じます。何卒、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



市立砺波総合病院 腎臓内科

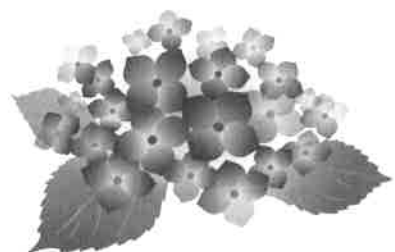
松 野 貴 弘

この度、4月より砺波医師会に入会しました腎臓内科の松野貴弘と申します。今年度より市立砺波総合病院に赴任することになり入会させていただきました。砺波に赴任する前は石川県の金沢医療センターで勤務しておりました。

砺波には2年前に大学病院に在籍中に週1回、砺波総合病院の腎臓内科の外来をしておりました。その時から砺波の街並み、そして砺波の方々の人柄に深く感銘を受けておりました。今回、再度専門外来・救急外来等を含め砺波の医療に携われる機会をいただきましたことを嬉しく思っております。

私は出身大学は金沢大学ではありますが生まれも育ちも実は三重県です。正直言うと、こちらに来るまでは全くと言っていいほど北陸とは無縁でした。今年で北陸に来て十数年になりますが今、改めて地元の良さを気づき始めております。三重県にいた際は怒られるかもしれませんが、正直言って中途半端なパツとしない県だなと思っていました。よくこちらにきて三重県について聞かれることがあるのですが、意外に三重県も捨てたもんじゃないなあと思っております。例えば伊勢神宮、鈴鹿サーキット、ナガシマスパーランド、志摩スペイン村、鳥羽水族館等の様な観光施設、そして食べ物なら赤福、伊勢海老、松阪牛等があります。もし、三重県に行かれる機会がありましたらお声をかけてください。地元の人が行くおいしいお店等を知っておりますのでお教えいたします、特にお肉はです。

それでは最後は全く医療とは関係ない話になってしまいましたが、皆様、今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



砺波医師会誌 第 211 号

編集後記

令和第 1 号の杏和だよりとなりました。平成はバブル崩壊から始まり、失われた 20 年といわれるように社会全体が停滞した時期でした。IT 長者が出現する一方、小泉構造改革に伴い非正規労働者が増加し、所得格差が広がり問題となりました。また阪神淡路、東日本、熊本震災、地下鉄サリン事件など重大事件が多い時代でもありました。医療では電子レセプト請求、電子カルテなど IT 化が進む一方、介護保険の誕生により多くの私的病院が無床診療所、介護病院へ転換し、医療から介護へのシフトが進み明るい話題が少ない時代だったように思えます。医師不足？、偏在、医師の長時間労働などの問題は令和に持ち越されましたが、これからの時代が、昭和の高度成長期のような明るい展望が見渡せるような、希望に満ちた時代になることを願うものであります。

柳 澤 伸 嘉 記

〔広報委員〕 山田 泰士、佐藤 重彦、津田 博、柳澤 伸嘉

